

基礎研 レター

子育て世帯の住宅取得事情

-昨今の住宅取得事情(その8)

社会研究部 准主任研究員 塩澤 誠一郎
(03)3512-1814 shiozawa@nli-research.co.jp

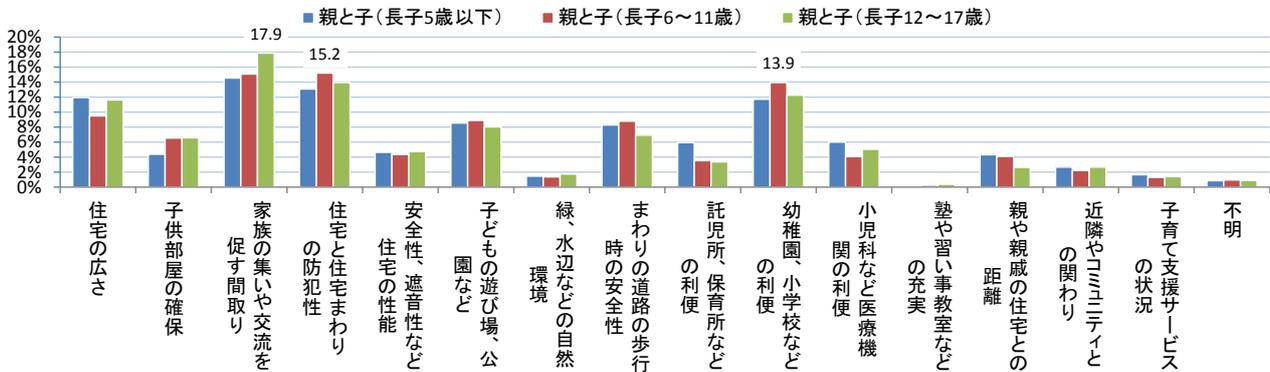
「昨今の住宅取得事情」の第8回は、平成25年住生活総合調査から、子育て世帯の傾向を見る。

1——子育てのために重要な要素

図表1は、住宅・居住環境に関して子育てのために一番重要な要素を、長子年齢別に子育て世帯でみた結果である。長子の年齢にかかわらず、「家族の集いや交流を促す間取り」、「住宅と住宅まわりの防犯性」、「幼稚園、小学校などの利便」の割合が高くなっている。

「家族の集いや交流を促す間取り」に関しては、長子の年齢が上がるほど割合が高く、「親と子(長子12~17歳)」では17.9%と目立って高い。

図表1 住宅・居住環境に関して子育てのために重要な要素(第1位)



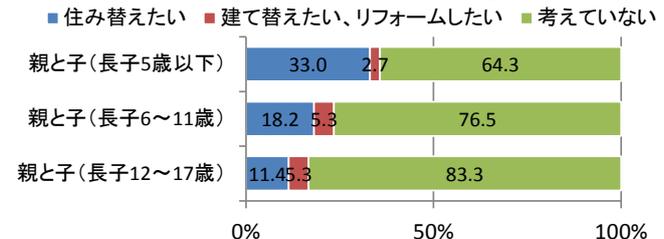
(資料)「平成25年住生活総合調査」国土交通省(以下同じ)

2——住み替え・改善目的

1 | 住み替え意向は子どもが小さい世帯程高い

子育て世帯の5年以内の住み替え・改善意向を見ると、長子年齢が高いほど、「住み替えたい」と「建て替えたい、リフォームしたい」の合計が高い傾向にある。(図表2)

図表2 今後5年以内の住み替え・改善意向



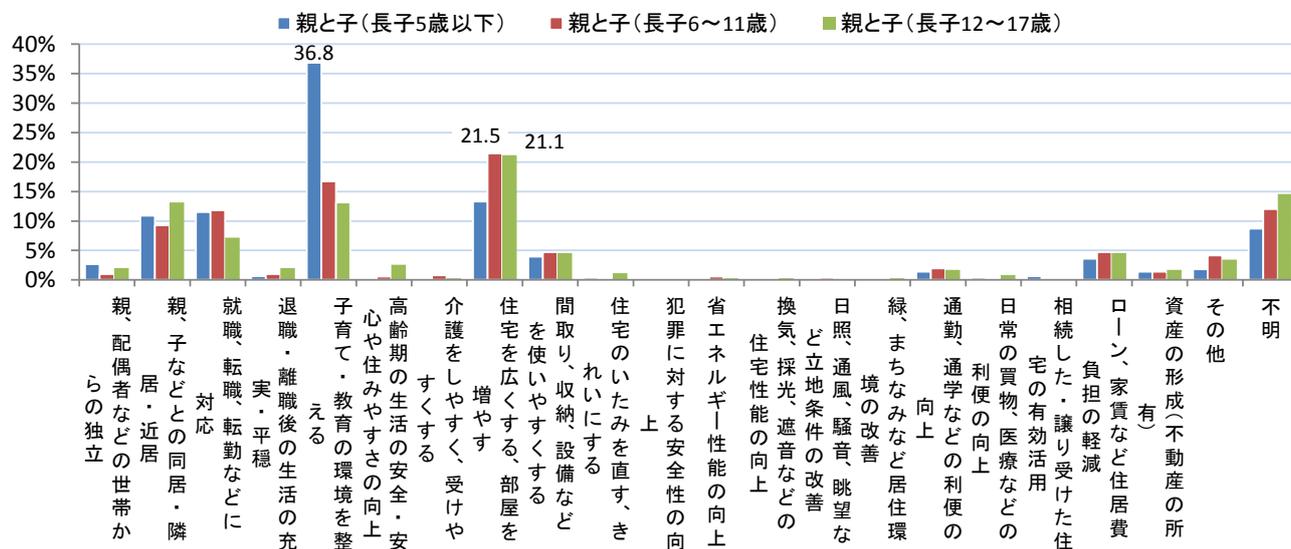
(注)不明除く

2 | 子どもが小さい世帯の住み替え目的は子育て環境の整備

今後5年以内の住み替え意向がある子育て世帯について、住み替えの目的を見ると、「親と子（長子5歳以下）」では、「子育て・教育の環境を整える」が36.8%で圧倒的に高くなっている。

「親と子（長子6～11歳）」、「親と子（長子12～17歳）」では、「住宅を広くする、部屋を増やす」がいずれも20%を超えて最も高くなっている。

図表3 住み替えの目的（今後5年以内の住み替え意向がある世帯）



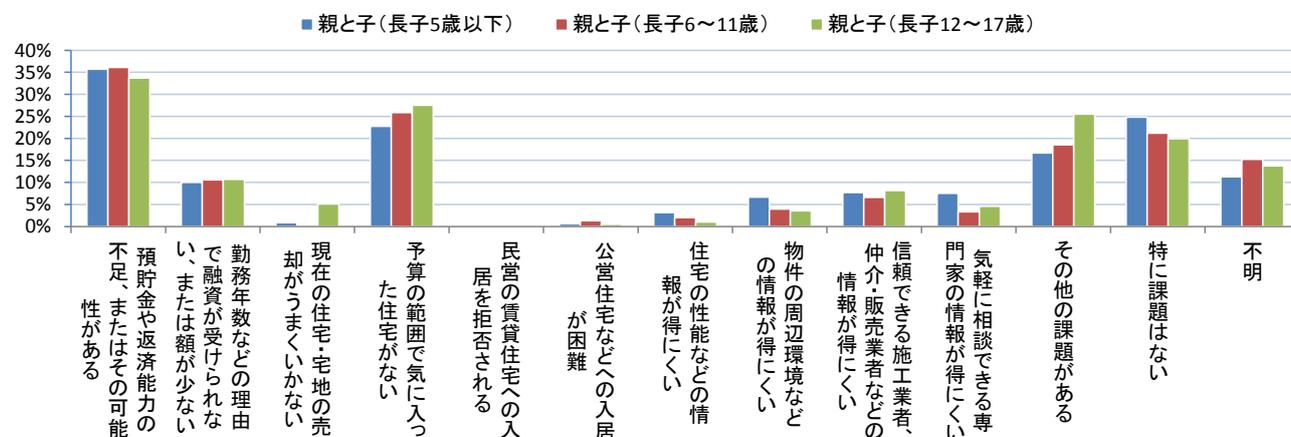
(注) 選択肢は主なもの

3——持ち家へ住み替える上での課題

今後5年以内に住み替え意向のある子育て世帯について、持ち家への住み替え上の課題を見ると、いずれの親と子世帯も「預貯金や返済能力の不足、またはその可能性がある」の割合が最も高くなっており、前回年代別に見た傾向と同様、長子年齢が低い程その割合が高くなっている。(図表4)

「予算の範囲で気に入った住宅がない」も他の選択肢に比べ高く、長子年齢が上がるほど割合が高くなる傾向である。子育て世帯にとって、子育て環境を重視し、部屋数を増やしたいと思っても資金的な制約があり、予算の範囲でニーズを満たす住宅が不足している状況が読み取れる。

図表4 持ち家への住み替えの課題（今後5年以内の住み替え意向がある世帯）



(注) 持ち家への住み替え意向のある世帯